



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ベンチャー・キャピタル

5

(株) タック・パートナーズ

伊藤貴（たかし）氏は二年間経営大学院で学び、今年の三月に無事卒業した。大学院では過労でぶっ倒れそうになったこともあるほどハードな勉強をこなした。それだけにMBAの卒業証書は、かれにとってズシリと重いものだった。 10

伊藤氏はこれからは日本でもベンチャーを育てることが必要と考え、卒業後は自らベンチャー・キャピタルを興したいと考えていた。

彼の猛勉強ぶりと起業の構想はある教員を通じて、大学院OBの戸高氏の知るところとなった。戸高氏は自ら会社を起業し、最近株式の店頭公開に成功し、数百億円のキャピタルゲインを得ていた。 15

戸高氏は伊藤氏の構想を聞いて、起業の協力を申し出てくれた。こうして伊藤氏の小さなベンチャー・キャピタル・(株) タック・パートナーズが誕生した。資本金1千万円、投資ファンド2億円でのスタートだった。

会社を興してまもなく、出資案件が持ち込まれた。(株) デバイス・ソリューションズ (DS社) という創業10年ほどの半導体商社だった。DS社はもともと標準部品の半導体を仕入れて売っていたが、最近技術的なコンサルティング力をつけ、“ソリューション”を売り物に伸びてきているという話だった。 20

半導体は「産業の米」といわれ、民生機器や産業機器の隅々にまで浸透し利用されてきている。パソコンやデジタルカメラといった大型製品の部品に組み込まれる半導体は、メーカー独自が開発するか、あるいは大手企業同士の提携で開発された。しかし販売数のさほど多くない製品群で使われる半導体は、こうした商社が設計機能を補完しながら開発され、メーカーに発注してユーザーに納品された。DS社はこんなニーズに対応して最近成長を遂げたとのことだった。半導体 25

.....
本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクール山根 節がクラス討議のために作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。 30

Copyright© 山根 節（2000年7月作成、2003年3月改訂）